

R1年度住宅・建築物環境対策事業費補助金完了実績報告書 補助金完了実績報告書の作成要領及びチェックリスト

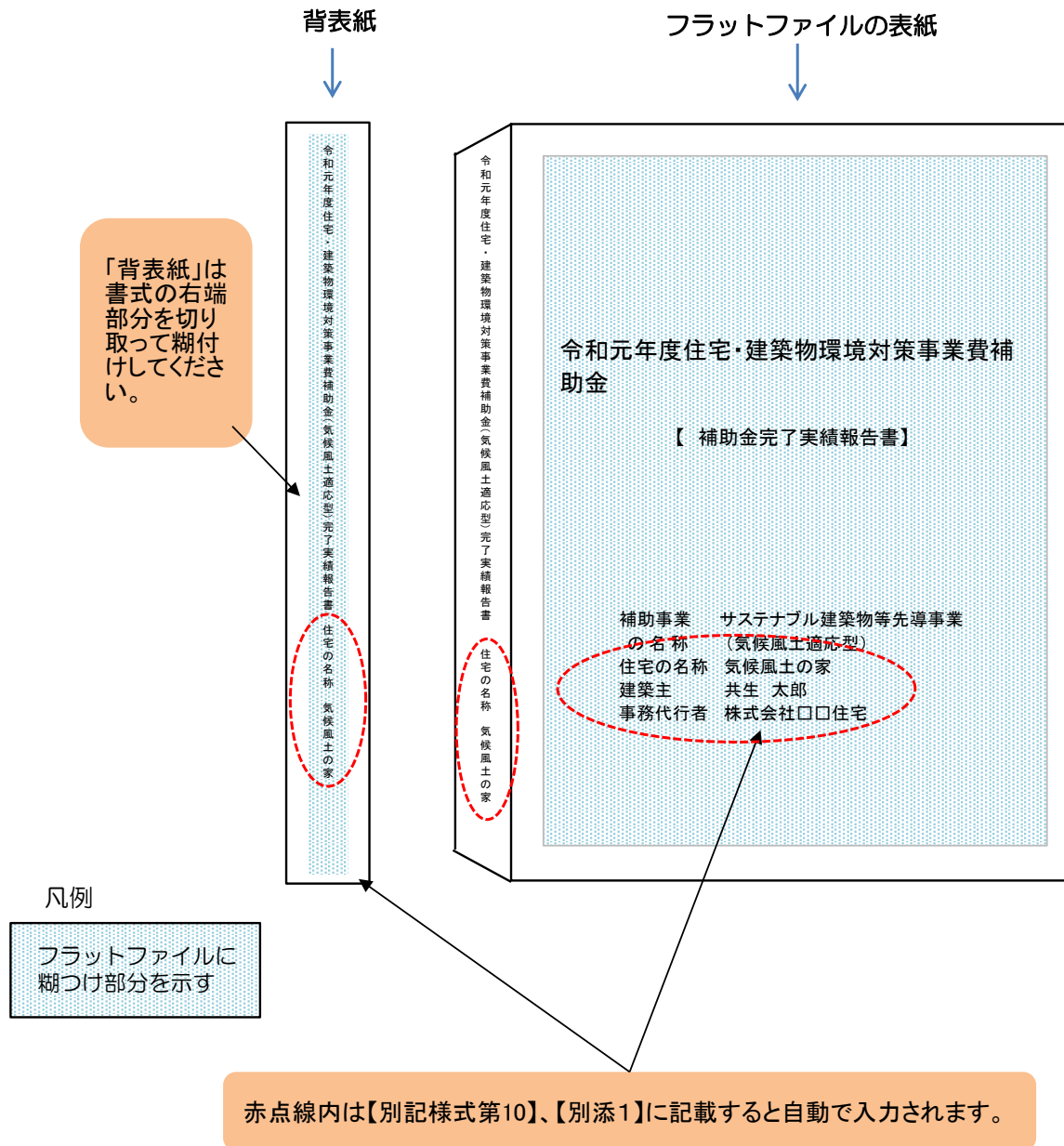
- 1 補助金完了実績報告書は事務代行者にて作成してください。
- 2 記入例を参照の上、2部作成し1部を提出してください。
残りの1部は申請者の控えとして保管してください。
(審査の質疑等がある場合、控えがあることを前提としてやり取りを行います。)
注1) 正1部の様式の内、押印書面は必ず「原本」を添付してください。
注2) ・提出: 1部 (正: 1部)
・控え: 1部 (正のコピー: 1部)
- 3 書類の大きさは原則としてA4とします。
設計図書の場合、最大でもA3サイズとし、この場合はA4サイズに折ってください。
尚、A3の図面をA4に縮小するのは避けてください。
- 4 申請書は、「A4紙製2穴フラットファイル」に綴じて提出してください。
フラットファイルの表紙及び背表紙に住宅の名称等を必ず記載して下さい。
(作成要領3頁 「■ファイル表紙・背表紙の作成要領」を参照)
- 5 添付する変更した図面や資料には、事業の要件(気候風土への対応、環境負荷低減対策等)やエネルギー消費削減量の算定根拠となる部分(数値、算定式、性能、型番など)にマーカーを入れるなど、わかりやすい表示としてください。
- 6 要求されていない書類は提出しないでください。

提出する書類にチェック"☑"を入力 又は 手書きでお願いします。

■提出書類一覧表

提出書類		記入例	様式/縮尺等	チェック欄
①	補助金完了実績報告書	例一実1	別記様式第10/原本	☐
②	補助金精算調書	例一実2	別紙1	☐
③	補助金換算額の精算方法及び内訳	例一実3	別紙2	☐
④	建築士による省エネルギー性能の状況、提案内容への適合確認書	例一実4	別添1	☐
	「3. 住宅の設計内容の省エネルギー性能の状況」	例一実5		
	・「BELS等の評価書」の写し			☐
	・「サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）に係る省エネ性能証明申請書」副本の写し（第一面～第五面の一式）		※BELS等の認証関連図書の写し（受領印等があるもの）	☐
	・BELS等取得時の「外皮計算書」一式の写し			☐
	・外皮に関する性能実績一覧	例一実6	提出資料1	☐
	・断熱材及び開口部の性能値を確認できるカタログ等の写し		※BELS等の認証関連図書の写し（受領印等があるもの）	☐
	・BELS等取得時の「一次エネルギー消費量計算結果」の写し			☐
	・各設備機器の性能値を確認できるカタログ等の写し			☐
	「4. 計画の変更等 及び 提案内容への適合状況」	例一実5		
	・提案内容に係る変更内容を確認できる資料		任意様式	☐
	・その他、気候風土適応関係図書（変更の場合） ※提案内容変更部分を明記及びマーキングしてください。 上記を補足する資料を提出してください。		任意様式	☐
上記に伴う設計図書（変更した場合）				
	1) 案内図 最寄駅及び目標となる建物を明示		任意縮尺	☐
	2) 配置図 縮尺、方位、敷地の境界及び道路の位置		任意縮尺	☐
	3) 仕上表		任意縮尺	☐
	4) 各階平面図 縮尺、方位、寸法、求積、室名		1/50程度	☐
	5) 立面図 縮尺、寸法 4面記載		1/100程度	☐
	6) 断面図		任意縮尺	☐
	7) 矩計図 断熱部、開口部の仕様等（種類・厚さ）を明示		1/20程度	☐
⑤	提案内容・物件の写真等（完了出来高が判別できるもの）	例一実8	任意様式	☐
⑥	「提出資料1」に伴う納品書及び出荷証明書等	例一実7	任意様式	☐
⑦	事業費の積算内訳が記載されている契約書等		原本写し	☐
⑧	工事等の事実を証明する書類		原本写し	☐
⑨	事業費の支払いを証明する書類		原本写し	☐
⑩	協議会が確認に必要と判断するもの			
⑪	交付決定通知書		原本写し	☐

■ファイル表紙・背表紙の作成要領



令和元年度住宅・建築物環境対策事業費補助金

【 完了実績報告書 】

別記様式第10を記載すると、自動で入力されます。

補助事業
の名称

サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）

住宅の名称

気候風土の家

建築主

共生 太郎

事務代行者

株式会社 □□住宅

Excelシート名「別添1-1」を記載すると、
自動で入力されます。

書類作成日を記載してください。

例一実1

令和 2 年 〇〇 月 〇〇 日

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会
会 長 竹 中 宣 雄 様

別添1-1を記載すると、自動で入力されます。

(申請者)

建築主の氏名又は名称

共生 太郎

共生

押印のあるすべての様式は同じ印鑑で押印してください。

令和元年度住宅・建築物環境対策事業費補助金完了実績報告書

交付決定通知書に記載された「交付決定日及び交付決定番号」を記載してください。

令和 元 年 〇〇 月 〇〇 日 付けKK J01発 第CK
補助金の交付決定を受けた標記事業が完了したので、平成31年度サステナブル建築物等先導事業
(気候風土適応型) 補助金交付規程第11の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

採択通知書に記載されている
「住宅の名称」を記載してください。

1. 補助事業の名称 サステナブル建築物等先導事業 (気候風土適応型)
住宅の名称 気候風土の家

2. 補助金の交付決定額及び精算額

補助金の交付決定額 1,000 千円

補助金の精算額 1,000 千円

3. 補助事業の実施期間 令和 元 年 〇〇 月 〇〇 日 ~ 令和 2 年 〇〇 月 〇〇 日

4. 補助事業の成果 (添付書類のとおり)

別紙1「精算補助金額」と同じ金額になります。
別紙1を作成すると自動で入力されます
単位は(千円)、消費税抜きです。

(添付資料)

1. 補助金精算調書
2. 補助金換算額の精算方法及び内訳
3. 建築士による省エネルギー性能の状況、提案内容への適合確認書
4. 外皮に関する性能実績一覧
5. 建築物省エネルギー性能表示制度 (BELS等) 評価書の写し
6. 提案内容・物件の写真等 (完了出来高が判別できるもの)
7. 「提出資料1」に伴う納品書及び出荷証明書等
8. 事業費の積算内訳が記載されている契約書等の写し
9. 工事等の事実を証明する書類の写し
10. 事業費の支払いを証明する書類の写し
11. その他協議会が確認に必要と判断するもの
12. 交付決定通知書

(別紙1)
(別紙2)
(別添1)
(提出資料1)

(任意様式)
(任意様式)

(原本写し)

(記載上の注意)

1. 用紙の大きさは、日本工業規格で定めるA列4とし、縦位置とすること。
(設計図書等はA3折り込みで可)
2. 「住宅の名称」には、採択通知書に記載してある「住宅の名称」を記載すること。

補助金精算調書

別紙2を記載すると、自動で入力されます。

1. 補助金調書

(税別、単位：千円)

区 分			金 額	備 考
交付決定 の内容	1	補助事業に要する経費 ※ 1	2, 000	
	2	補助金額 ※ 2	1, 000	
補助金 換算額	3	精算対象支払額 ※ 3	2, 000	
	4	精算補助金額 ※ 4	1, 000	
5		消費税仕入控除税額	0	
6		補助金不用額 5 = 2 - 4 ※ 5	0	
7		補助金受入済額	0	
8		差引受入見済額または超過額	0	

(記載上の注意)

- ※ 1. 交付申請（もしくは交付変更承認申請）「別紙 1」に記載した補助対象事業費の合計を記載すること。
- ※ 2. 交付決定通知書の交付決定額を記載すること。
- ※ 3. 実績報告書「別紙 2」に記載した補助対象事業費の合計を記載すること。
- ※ 4. 実績報告書「別紙 2」に記載した精算額の合計を記載すること。
- ※ 5. 交付決定額より小額での申請となる場合は、その差額を記載すること。

(その他注意事項)

- ※ 精算補助金額は他の補助金の受け入れ未済額とすること。
- ※ 実績報告書にて添付する他の様式と金額が整合していること。
- ※ 備考欄は未記入とすること。

別記様式第10を記載すると、自動で入力されます。

住宅の名称： 気候風土の家

補助金換算額の精算方法及び内訳

例一実3

※補助金精算額は(A)、(B)又は(C)の少ない金額とし、(D)×補助率で算出する。(単位: 千円)

交付申請(または交付変更申請)の金額を()内に記載してください。

補助対象項目	事業費 (D)	(E) = (D) - (F)	(F)	補助率	補助金精算額 (G) = (F) × 補助率
環境負荷の低減項目	(36,000) 36,000	(34,000) 34,000	(2,000) 2,000	1/2	(1,000) 1,000
(交付決定額)	36,000	34,000	2,000		1,000
(変動増減)	0	0	0		0

(E)のうち、他の補助金実績時の(D)(E)(F)(G)については、下表を作成すると自動で入力されます。

事業名: 浄化槽補助金

所轄名: ○○県

注1 交付申請額は掛かり増し費用相当額の1/2以内の額とする。

ただし、補助対象となる採択金額を上限とする。本申請以外の補助金を記載してください。

注2 (F)には、他の補助金を補助対象事業費には他の補助金を含めることはできません。

注3 交付申請(または交付変更承認申請)に基づく交付決定額を上段()内に記載すること。

(D) 事業費	※事業費の積算内訳が記載されている見積書等を添付すること	(D)
		36,000,000

掛かり増し費用相当額の内訳	環境負荷の低減項目		差額金額
	1	土塗壁	1,900,000
	2	木製建具	700,000
	3		
	4	環境負荷の低減項目や金額について、記載してください。	
	5		
		掛かり増し費用相当額の合計金額	2,600,000
掛かり増し費用相当額による補助金額精算	掛かり増し費用相当額の1/2		(A) 1,300,000
	掛かり増し費用相当額の合計金額の内、補助対象事業費とする金額		(F) 2,000,000

注4 交付申請(交付変更承認申請)時より変更した場合、掛かり増し費用による補助対象事業費は見積書を添付すること

補助対象とならない項目の内訳	補助対象とならない項目		金額
	1	外構工事	2,120,000
	2	屋外給排水	1,350,000
	3	地盤改良	481,600
	4	設計費、建築確認申請費、申請手続き費等	2,500,000
	5		
		小計	6,451,600
建設工事費による補助金額精算	補助対象となる部分の建設工事費の全体		29,548,400
	補助対象となる部分の建設工事費の1/10		(B) 2,954,840

(C) 採択金額 (補助金額)	※採択通知書に記載された採択金額を記載すること	(C)
		1,000,000

補助金換算額の算定	(A)、(B)又は(C)の少ない金額	採択金額 (補助金額)	1,000,000
			別記様式第10を記載すると、自動で入力されます。

住宅の名称: 気候風土の家

例－実4

建築士による省エネルギー性能の状況、提案内容への適合確認書

当該申請に係る住宅の設計内容の省エネルギー性能の状況、及び住宅の整備内容と交付申請書に添付する書類の内容は、次のとおりである。

実績報告書の内容が採択された内容に適合していることを確認した建築士の氏名他を記載し、建築士の個人印を押印してください。

建築士による書類作成日を記載してください。

令和 2 年 〇〇 月 〇〇 日

二級 建築士 〇〇県知事 登録 第 12356 号

建築士の氏名 工務店 太郎



※建築士は本確認書の内容について責任を持つものとする。不正があった場合、建築士法に基づき処分される場合があることに留意すること。

1. 住宅の基本事項

住宅の名称	気候風土の家	別記様式第10を記載すると、自動入力されます。
建設地	〇〇〇県〇〇〇市大字〇〇1111番地1号	
住宅部分の床面積・階数	一次エネルギーの床面積の合計 130.33 m ² ・ 地上 2 階 地下 0 階	
他の補助金申請	有 補助金名称 〇〇県浄化槽補助金	国費外

(記載上の注意)

1. 他の補助金申請の有無を記載してください。

2. 補助事業者等の概要

建築主(申請者)	氏名又は名称 共生 太郎
	住所 東京都新宿区神楽坂 2-××-××
事務代行者の連絡先(申請代理人)	会社名称 株式会社 □□住宅
	担当者氏名 △△ ▽▽
	住所 〇〇〇県〇〇〇市×××××××-××××
	電話番号 111-222-3333

(記載上の注意)

- 1. 住所、所在地は、都道府県から記入すること。
- 2. 複数の設計者が関与している場合、代表となる設計者を記入すること。

3. 住宅の設計内容の省エネルギー性能の状況

(1) 算定結果

住宅の 地域区分	6 [地域]	提案時の 数値基準	完了実績時の 結果
外皮平均熱貫流率 (UA) [W/(m ² ・K)]		1.07	1.07
冷房期の平均日射熱取得率 (ηA)		2.1	2.1
一次エネルギー消費量 気候風土適応住宅版 ※建築物エネルギー性能基準 (行政庁認定住宅用)	設計一次エネルギー消費量 [GJ/(戸・年)]	59.7	59.8
	BEI	1.23	1.25

(2) 計算書

(注) 「BELS

申請する住宅について、BELS等評価書の結果を記載してください。

BELS等の評価を受けた時の「外皮計算書」及び「一次エネルギー消費量計算結果」を提出すること。

4. 計画の変更等 及び 提案内容への適合状況

(1) 交付申請時からの設計変更の有無	有
(2) 交付申請書に記載した地域の気候風土への適応、環境負荷対策 及び取組等の提案内容、省エネルギー基準に関する変更の有無	有

(注) 少なくとも、建築基準法第6条第1項に定める「建築物の計画変更の内容」及び完了検査申請書「確認以降の軽微な変更の概要」欄に記載した事項がある場合は、(1)については「有」とすること。

上記(2)で「有」を選択した場合、次の内容を記載すること。

要素・項目等	変更の概要	当該変更の内容が 提案内容への適合 状況に影響を与え ないと判断した理由
土塗壁	土塗壁を〇〇㎡から〇〇㎡に増加	軽微な面積変更の為
変更した内容について、具体的に記載してください。		

(注) 「要素・項目等」欄には、地域の気候風土への適応、環境負荷低減対策及び取組等の提案内容、省エネルギー基準について、提案申請書に記載した事項を記載すること。欄は適宜追加すること。

別記様式第10を記載すると、自動入力されます。

住宅の名称： 気候風土の家

年 月 日

作成者(申請者)

住所

会社名

印

氏名

住宅名称: _____ の施工業者一覧

No.	業種	内容	会社名・職方	住所
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

出荷証明証の見本 (必須事項：①～⑦の明記がえるもの)

令和元年〇月〇日

●△建設株式会社 殿

⑦ 社印

株式会社
△△△△

① 施工会社名

出荷証明書

毎々、格別なるお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

扱て、今回の工事に関しまして下記の通り商品を出荷した事を証明致します。

② 邸名

③ 建設地 又は 納品場所

記

工事名	○○△△様邸
建築主名	○○△△様
建設地	◎◎県〇〇市〇●123-456
販売店	有限会社●●住器
納品日	下記のとおり

⑤ 出荷日 又は 納品日

④ 商品名 及び 品番

⑥ 数量

	商品名	色	納品日	納品数
1	AD-1 ジェスタK2片開きR A17型トリノパイン (BC)	トリノパイン	2019年2月20日	1
2	AD-2 サーマス	ト	2019年2月20日	1
3	AD-2 Low-e複層		2019年2月20日	1
4	AW-1 サーマス II	ト	2019年2月20日	1
5	AW-1 Low-e複層ガラスSH遮熱 / LEG4-A14-透明4G付		2019年2月20日	1
6	AW-2 サーマス II-Hイタリヤシャッター付引違い窓手動2枚建		2019年2月20日	2
7	AW-2 Low-e複層ガラスSH遮熱 / LEG4-A14-透明4G付		2019年2月20日	1
8	AW-3 シンプルアート II 突き出し窓ノックダウン品165025	シャイン/ホワイト	2019年2月20日	2
9	AW-4 サーマス II-H横すべり出し窓07409	シャイン/ホワイト	2019年2月20日	1
10	AW-4 Low-e複層ガラスSH遮熱 / LEG3-A14-透明5G付		2019年2月20日	1
11	AW-5 【特注】サーモス II-H縦すべり出し窓T左吊060		2019年2月20日	2
12	AW-5 Low-e複層ガラスSH遮熱 / LEG3-A16-透明3G付		2019年2月20日	2
13	AW-5 【特注】サーモス II-H縦すべり出し窓T左吊06007L	シャイン/ホワイト	2019年2月20日	1

窓番号：外皮計算書等の窓番号又は平面
図記載の窓番号であること

ガラスの仕様

窓サイズ

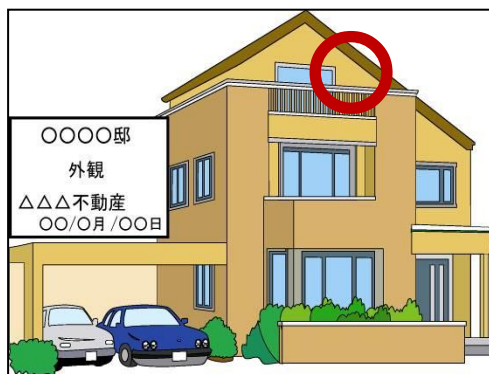
サッシの出荷証明については「補助金交付申請」時に選定した項目が
確認できるように窓番号、ガラスの仕様、サイズを明記してください

完了実績報告書に添付する物件の写真について

＜写真撮影の際の留意点＞

工事写真は、工事が適正に施工されたことを報告するためのものであり、工事などの進捗によって不可視となる箇所など後日確認が困難になるものについては、特に重要です。

- 1) 共通事項
 - ・手振れやストロボ等の影響により撮影対象や文字が不鮮明なものは不可です。
 - ・写真は工程順にレイアウトし、写真の番号、施工部位や補足説明文などを記入してください。
 - ・補助対象部位が判読できるように、一定の範囲もしくは全景を撮影してください。
 - ・写真には日付、事業者名、邸名、工事内容等を明記したボードを入れ、その内容が判読できるように撮影してください。
(ボードが不鮮明な場合、写真台帳に明記してください。)
 - ・写真貼り付け欄等が不足する場合は、適宜追加してください。
- 2) 外観・内観
 - ・外観、内観写真はそれぞれ1面以上(「対象住宅の写真」に貼付した以外の面)を撮影し提出してください。
 - ・主たる居室と階段室等を区切る建具を有する場合は「別途資料」を参照のこと
- 3) 断熱材
 - ・屋根、天井、外壁、床、オーバーハング部、基礎等の施工部位毎に撮影してください。
 - ・断熱材の仕様が確認できるように、また断熱材施工後の状態が確認できるように撮影してください。
- 4) 開口部
 - ・玄関ドア等も含め、代表的な3～4箇所程度を撮影してください。
- 5) 設備機器
 - ・空調設備、換気設備、給湯設備(節湯機器、高断熱浴槽を含む)、照明設備、太陽光発電設備など、提案する設備機器は全て撮影してください。
(其々1～2枚程度。照明設備は代表的な2～3箇所程度。)
- 6) 給湯配管
 - ・小口径配管「有」で算定した場合は「給湯ヘッダー」の写真が必要となります。



補助事業者名、邸名等を記入したボードは、文字が読めなくては意味がありません。文字の大きさ、鮮明度等、報告用の資料写真として相応しいか、十分確認してください。



画面には提案内容に係る部分だけを接近して撮影するのではなく、周囲の状況もバランス良く画面に納めて、当該住宅の写真であることが特定できるようにしてください。